

平成 27年 05月 30日

国土交通大臣 殿

地域型住宅グリーン化事業 適用申請書

本申請書の内容により、地域型住宅グリーン化事業の適用を申請します。
この申請書及び添付資料に記載の事項は、事実と相違ありません。

地域型住宅の名称

霧島杉利用住宅『霧島の家』

グループの名称

霧島住まいの協議会

直近採択グループ番号

04-0077-0468

※過去に地域型ブランド化事業で
採択を受けたグループは記入

(グループ代表者)

代表者名

米田 裕一

代表者印

代表者所属先

有限会社エイエスピーホーム

代表者構成員番号

V-2, VI-2

代表者所在地

鹿児島県霧島市国分広瀬4丁目7番6号

代表者電話番号

0995-45-1123

(グループ事務局)

事務局事業者名

株式会社米田

事務局構成員番号

II-1, III-1, VII-1

事務局担当者名

橋口 浩子

印

事務局郵便番号

899-4321

事務局所在地

鹿児島県霧島市国分広瀬4丁目7番6号

事務局電話番号

0995-45-1123

事務局FAX

0995-45-3024

事務局担当者E-mail

meta1123@estate.ocn.ne.jp

1. 地域型住宅の名称(必須)	霧島杉利用住宅『霧島の家』
2. グループの名称(必須)	霧島住まいの協議会
3. 直近採択グループ番号(必須)	04-0077-0468
4. 地域型住宅供給対象地域(必須)	鹿児島県
5. 結成年(必須)	2012 年
6. グループ代表者名(必須)	米田 裕一
7. グループ代表者の所属先(必須)	有限会社エイエスピーホーム
8. グループ代表者の構成員番号(必須)	V-2, VI-2
9. グループ代表者所在地(必須)	鹿児島県霧島市国分広瀬4丁目7番6号
10. グループ代表者電話番号(必須)	0995-45-1123
11. グループ事務局事業者名(必須)	株式会社米田
12. グループ事務局の構成員番号(必須)	II-1, III-1, VII-1
13. グループ事務局担当者名(必須)	橋口 浩子
14. グループ事務局郵便番号(必須)	899-4321
15. グループ事務局所在地(必須)	鹿児島県霧島市国分広瀬4丁目7番6号
16. グループ事務局電話番号(必須)	0995-45-1123
17. グループ事務局FAX番号(必須)	0995-45-3024
18. グループ事務局担当者E-mail(必須)	meta1123@estate.ocn.ne.jp

(構成員数)		(構成員を含まない理由)
I. 原木供給	1	
II. 製材・集成材製造・合板製造	1	
III. 建材流通(木材を扱わない事業者を除く)	3	
IV. プレカット	1	事業者に手刻みでの加工がある為、プレカット事業者を軽油しない場合がある
V. 設計	6	
VI. 施工	12	
VII. 省エネルギー設備等の流通	3	
VIII. 木材を扱わない流通	1	
IX. I～VIII以外の業種	0	

A. 使用する地域材に関する事項 (必須)	対象となる地域材の名称	地域材の産地	認証制度等の名称 ※以下該当の①、②、③の番号を番号記入欄に記入してください。 ① 都道府県の産地認証制度等によるもの ② 民間の第三者機関による認証制度(FSC、PEFC、SGEC等) ③ 林野庁作成の「木材・木製製品の合法性、持続可能性のためのガイドライン(平成18年2月)」に基づき合法性が証明されるもの	国内・国外
	認証かごしま材	鹿児島県	認証かごしま材認証制度	番号記入欄 1 国内
B. 平成27年度における補助対象の木造住宅の申請戸数及び地域材加算申請戸数 (必須)	長寿命型(長期優良住宅) 経験工務店＋未経験工務店の合計	15 戸	地域材加算合計 15 戸	
	うち経験工務店による長期優良住宅 合計	5 戸	うち未経験工務店による長期優良住宅 合計	10 戸
	うち申請が確実	戸	うち申請が確実	戸
	うち申請が未確定	5 戸	うち申請が未確定	10 戸
	地域材加算(うち申請が確実)	戸	地域材加算(うち申請が未確定)	15 戸
	高度省エネ型(認定低炭素住宅) 合計	0 戸	地域材加算合計	0 戸
	うち申請が確実	戸	地域材加算(うち申請が確実)	戸
	うち申請が未確定	戸	地域材加算(うち申請が未確定)	戸
	高度省エネ型(ゼロ・エネルギー住宅) 合計	2 戸	地域材加算合計	2 戸
	うち申請が確実	戸	地域材加算(うち申請が確実)	戸
うち申請が未確定	2 戸	地域材加算(うち申請が未確定)	2 戸	
C. 平成27年度における補助対象の優良建築物の申請棟数及び床面積(優良建築物を供給するグループのみ必須)	優良建築物			
	うち申請が確実	棟	m ²	
うち申請が未確定	棟	m ²		
D. 当提案が採択された場合の各住宅事業者における補助対象戸数の配分ルール (必須)	補助対象戸数の配分については、未経験工務店を優先的に1戸づつ配分し、残りを経験工務店へ1戸づつ、さらに配分戸数がある場合は抽選とする。			
E. 平成26年度の執行状況(H26年度地域型ブランド化事業採択グループのみ必須)	長期優良住宅			
	採択戸数	4 戸	交付申請戸数	4 戸
	完了実績見込み			
未造建築物				
採択棟数	0 棟	採択床面積	0 m ²	
				竣工済 4 戸 竣工予定 0 戸

1. 地域型住宅の名称・対象地域(必須)	(地域型住宅の名称) 霧島杉利用住宅『霧島の家』	(地域型住宅供給対象地域) 鹿児島県
2. グループの名称・結成年(必須)	(グループの名称) 霧島住まいの協議会	(結成年) 2012年
3. 過去のブランド化事業採択グループ番号(必須)	04-0077-0468	

4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み ※記入した内容において「必ず実施する取組み」の場合は◎印、「グループが目指す目標」の場合は○印を右欄に記入してください。
※住宅と建築物(非住宅)の両方を申請する場合において、取り組みに違いがある場合は、その旨を具体的に記入してください。

ア. 特徴ある地域型住宅の目標設定

【平成27年度対応方針】		◎、○ 記入欄
①地域の気候・風土等に根差した地域型住宅の重視する性能	1)土台・柱・梁・桁の構造材の60%以上を合法木材、認証がこしま材とする 2)台風、南海沖地震に備え地震に強い住宅とするため、台風と地震に備え耐震等級2とする 3)高温多湿で降灰のある地域により、高断熱の家とするために、降灰、厚さ、湿気対策として気密性の高い複層ガラスの窓を使用する 4)少子高齢化で高齢者が増えることにより、バリアフリー住宅を基本性能とする。5)	◎
②地域の気候・風土等に根差した地域型住宅の建て方や様式	①台風と地震に備え耐震等級2とする ②暑さ湿気対策により省エネ等級4に加え屋根と壁に遮熱対策として18mm以上の通気層を設置する。 降灰、暑さ、湿気対策として気密性の高い複層ガラスの窓を使用する。 地盤調査、設計性能の表示の義務化。	◎ ③ ④
③地域の気候・風土等に根差した地域型住宅のデザインルール	当地域は強い日差しの為、軒を長めに出す 台風、降灰、高温多湿、降水量などを考慮し、屋根は傾斜のあるものにする。 通風を考えた窓や通気口を配置する 床は段差のない床、広い出入口、広めの廊下、ゆるやかな階段	◎
④①～③の背景	鹿児島県は、冬は温暖で、夏は日照時間が長く降水量の多い高温多湿な風土であり、日本一の台風上陸数と、南海沖地震も懸念され、桜島の降灰もありますこの地域の特性を考慮した。また県土の65%にあたる59万haの森林のうちその50%が 逐次伐期を迎えつつある杉・松の人工林である為、流通量と価格に安定的な流通ができると思われるのでこの地域材の特性を生かしていく。	◎
⑤その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入	地域材は含水率20%以下の検査をクリアしたのを使い、乾燥機に使用する燃料は、製材による廃材を使用しコストの削減と省エネに貢献する	◎

イ. 効率的な住宅生産体制の整備

【平成27年度対応方針】		◎、○ 記入欄
a		
①用材の寸法規格化や建材の統一、標準仕様の設定	住宅設備の検討会を実施し、グループとして霧島杉利用住宅『霧島の家』に使用する木材の寸法規格化し、建材の選定を行い統一化を図る	◎
②建材・資材調達の見直しや事務の合理化	建材流通業者や建材メーカー等の協力により、市場の経済状況を随時考慮し、共同購入ができるものを優先仕入することによりコストの削減を図る	◎
③生産の合理化等に向けた委員会等の検討実施体制	住宅設備の検討会にて省エネルギー化に対応する標準的な建材の使用をグループ内で検討し資材の購入を一括化する	◎
④生産の合理化等に向けた事務局の役割	納品書等により価格、納品日など事務局がまとめ、確認しグループで問題点を話し合う。	◎
b		
①グループの信頼性向上に向けた施工基準の整備	長期優良住宅の施工基準に基づき施工する。(長寿命型のみ適用)	◎
②グループの信頼性向上に向けた検査ルールを設定	着工時から竣工まで、現場監理事業者により3回～4回の現場検査を行う、その時施工事業者も立会い問題点があれば、グループ全体で情報交換しグループの信頼性の向上をめざす	◎
③グループの信頼性向上に向けた見積・積算のルール化	見積書は、標準見積書の作成により詳細な説明、提示の義務化 顧客に信頼を得る為木材に一式表示をしないこととし、木拾いシートにより詳細を表示する。 木材以外の明細も一式表示をしない様にし品番、規格、数量等を明確に表示し、主な材料にはカタログ等を添付する。	◎
④グループの信頼性向上に向けたその他の具体的取組	霧島杉利用住宅『霧島の家』のグループで定めた標準設計、施工を順守し鹿児島工業技術センターの指導を仰ぎグループ内で成果発表を行う 施工状況の共有化をグループ内で行うためWeb上で管理し、効率的に資材を搬入し運送コストを削減する	○
その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入		

※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。

1. 地域型住宅の名称・対象地域(必須)	(地域型住宅の名称) 霧島杉利用住宅『霧島の家』	(地域型住宅供給対象地域) 鹿児島県
2. グループの名称・結成年月(必須)	(グループの名称) 霧島住まいの協議会	(結成年) 2012年
3. 過去のブランド化事業採択グループ番号(必須)	04-0077-0468	

4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み ※記入した内容において「必ず実施する取り組み」の場合は◎印、「グループが目指す目標」の場合は○印を右欄に記入してください。
※住宅と建築物(非住宅)の両方を申請する場合において、取り組みに違いがある場合は、その旨を具体的に記入してください。

ウ. 長期にわたる住宅メンテナンス体制の整備

【平成27年度対応方針】		◎、○ 記入欄
a	①住宅履歴情報の共通管理 診断・点検方法の共通化	◎
	②メンテナンス・リフォーム 基準の整備	◎
	③住まいの管理・DIY相談会 体験会などの実施	◎
	④グループ内における維持 管理検討委員会等の設置	◎
b	①グループ構成員の倒産廃 業時のバックアップ体制	◎
	②グループ独自の瑕疵担保 ルールの整備	◎
その他	※上記項目以外でグループ独自 のルール・目標があれば記入	○

エ. グループの技術力の向上

【平成27年度対応方針】		◎、○ 記入欄
a	①未経験工務店等への施工 技術研修会等の開催	◎
	②①の研修会等の実施内容 とその開催頻度	◎
	③総合的な需給計画の策定 等の中長期的な取組	◎
	④③に基づく業種ごとの合 理化への取組	◎
b	①省エネ技術講習会への参 加目標人数	○
	②省エネ技術講習会への参 加促進のための取組	◎
c	①新たな技術等の導入や開 発の検証のための方法	○
	②新たな技術等の導入や開 発に向けた実証実験の実 施等	○
その他	※上記項目以外でグループ独自 のルール・目標があれば記入	◎

※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。

1. 地域型住宅の名称・対象地域(必須)	(地域型住宅の名称) 霧島杉利用住宅『霧島の家』	(地域型住宅供給対象地域) 鹿児島県
2. グループの名称・結成年月(必須)	(グループの名称) 霧島住まいの協議会	(結成年) 2012年
3. 過去のブランド化事業採択グループ番号(必須)	04-0077-0468	

4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み ※記入した内容において「必ず実施する取組み」の場合は◎印、「グループが目指す目標」の場合は○印を右欄に記入してください。
※住宅と建築物(非住宅)の両方を申請する場合において、取り組みに違いがある場合は、その旨を具体的に記入してください。

オ. 地域の産業・住文化・景観等への寄与

【平成27年度対応方針】		◎、○ 記入欄
a	①地域材ごとの使用部位(必須)	◎
	②地域材ごとの1棟当たりの使用量とその占める割合(必須)	◎
	地域材利用に関する共通ルール(必須)	◎
	地域材の流れ(フロー図)などグループの取組に関する補足説明	◎
b	①地域材の在庫量や価格情報を把握・共有のための仕組み	◎
	②グループ全体における地域材の需給予測	◎
c	①-1 畳の活用	○
	①-2 和瓦の活用	○
	①-3 襖の活用	○
	①-4 障子の活用	○
	②その他地域の伝統的な素材や意匠の活用	○
d	①地域の伝統的なデザインを継承する取組	○
	②地域の住まい方の継承につながる取組	○
	③地域の街並み形成へ寄与する取組	◎
	④和の住まいの要素を取り入れた取組	◎
その他	和の住まいの推進をなお一層図る	◎
※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入		

その他

【平成27年度対応方針】		◎、○ 記入欄
東日本大震災の復興に資する取組	東日本大震災に限らず、全国どこでも災害が発生した時は、仮設住宅の建設のための資材の調達や、施工の協力等ができるような仕組みをつくる。	○

グループが取組む木造住宅・建築物の特徴

※この項目は、高度省エネ型、優良建築物型を申請するグループのみ記入してください。
※申請に係る認定低炭素住宅、ゼロ・エネルギー住宅、優良建築物型の性能や特徴等について記入してください。

当グループの取組むゼロ・エネルギー住宅は、以下の通りとする

住宅の高断熱化
冬は日差しを取り込み、夏場は日差しを遮る

風通しを良くして、春秋の冷暖房費を削減

高効率給湯器

節水水栓金具

浴室は高断熱浴槽

照明器具はすべてLED照明にし白熱灯を使用しない

トイレは節水型トイレ

太陽光発電システム
太陽光を使って電気エネルギーをつくる

断熱等級4

オール電化住宅

サッシは複層ガラスに加え高断熱Low-Eを使用

南面についてはできるだけ軒、庇を長く出し日差しを遮る

高効率空調設備

外構はできるだけ緑化推進

※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。